

第2章

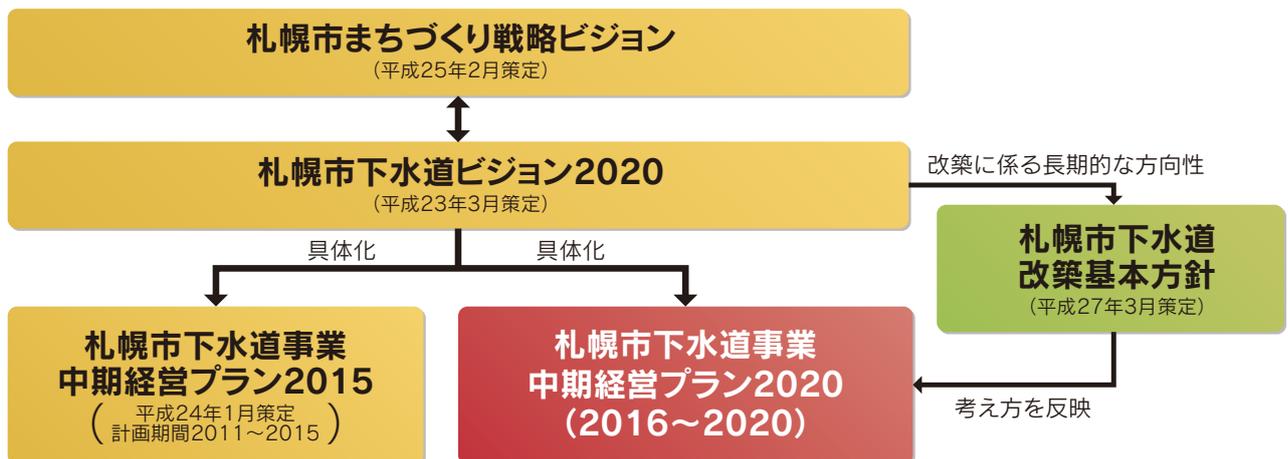
中期経営プラン2020の位置づけと
取組方針

1 中期経営プラン2020の位置づけ

札幌市では、10年間（平成23年度（2011年度）から平成32年度（2020年度）まで）の下水道事業の中期的な方向性を示す、「札幌市下水道ビジョン2020」（以下、「下水道ビジョン2020」という。）を平成23年（2011年）3月に策定しました。

「中期経営プラン2020」は、第1章で述べた課題に対応すべく、「下水道ビジョン2020」で掲げた基本方針と基本目標に基づき、「札幌市下水道改築基本方針」の考え方などを反映させ、今後5年間の事業計画と財政計画を定めるものです。

さらに札幌市では、平成25年（2013年）2月に「札幌市まちづくり戦略ビジョン」（以下、「戦略ビジョン」という。）を策定し、将来目指すべきまちの姿とまちづくりの方向性を示していますが、この中期経営プラン2020は、戦略ビジョンの推進にも寄与するものです。



2 基本方針と基本目標（下水道ビジョン2020より）

「下水道ビジョン2020」で掲げた以下の方針を継承し、中期経営プラン2020の基本方針と基本目標とします。

● 基本方針

次世代へ良好な「暮らし」「環境」「資産と技術」をつなぎます

● 基本目標

- Ⅰ 安全で安心な市民生活を維持します
- Ⅱ 環境に与える負荷の低減に努めます
- Ⅲ 健全で持続可能な経営を目指します

3 5年間の取組方針

第1章で述べた下水道事業の現状と課題を踏まえ、平成28年度(2016年度)から平成32年度(2020年度)までの5年間は、次の4つの取組方針を掲げ、下水道事業を計画的に運営します。

取組方針1

いつまでも安心して暮らせる街にしていくため、市民生活を支える下水道の**維持管理・改築を計画的かつ効率的に進めます。**

取組方針2

災害に強いまちづくりを目指して、大雨などの自然災害による被害を軽減するよう、**ハード・ソフトの両面で都市基盤の強靱化を進めます。**

取組方針3

清らかな水環境を保全するとともに、**下水道エネルギーや資源の有効利用**に努め、循環型社会へ貢献します。

取組方針4

良質な下水道サービスを継続して提供できるよう**経営の効率化を図り、経営基盤の強化に努め、将来の下水道の担い手を育成**します。

(注) 下線は、次の体系にある「施策目標」との関連を示しています。

4 中期経営プラン2020の体系

「下水道ビジョン2020」の基本目標や「5年間の取組方針」に基づき、施策目標と施策を以下のとおり定めます。

	基本目標	施策目標	施策
主要施策の展開	I 安全で安心な市民生活を維持します	下水道機能の維持向上 取組方針1	下水道施設の維持管理 下水道施設の再構築
		災害に強い下水道の実現 取組方針2	下水道施設の災害対策(雨水対策・地震対策)
	II 環境に与える負荷の低減に努めます	清らかな水環境の保全と創出 取組方針3	下水道整備と水質改善
循環型社会への貢献 取組方針3		下水道エネルギー・資源の有効利用	
健全で安定した経営への取組	III 健全で持続可能な経営を目指します 取組方針4	経営基盤の強化	財務体質の強化 組織力の向上
下水道サービスの向上	「情報提供」による市民理解の促進 「市民参加」によるニーズの把握		

コラム ②

下水道事業の今後の方向性

「下水道ビジョン2020（平成23年（2011年）3月策定）」の策定から5年が経過し、その間にも東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故によるエネルギー政策の転換や、局所的な集中豪雨による浸水被害の増加など、近年の社会経済状況は大きく変化しています。

また、下水道事業においても、国の「新下水道ビジョン（平成26年（2014年）7月策定）」が策定され、下水道の目指すべき方向性が示されるなど、下水道を取り巻く環境も大きく変化しています。

下水道が果たすべき究極の使命

持続的発展が可能な社会の構築に貢献（Sustainable development）

究極の使命を実現するための4つの具体的使命

1 循環型社会の構築に貢献

下水道が有する水・資源・エネルギー循環の機能を持続的かつ能動的に発揮していくことで、地域・世代を超えて、水・資源・エネルギーを量的・質的に健全に循環させる社会の構築に貢献する。

2 強靱な社会の構築に貢献

下水道が有する汚水の収集・処理、雨水の排除又は貯留といった機能を平常時はもとより、大規模災害（地震、津波、異常豪雨など）時においても強くしなやかに発揮し、持続的に提供することを通じ、国民の健康・生命・財産及び経済活動を保護・保全する強靱な社会の構築に貢献する。

3 新たな価値の創造に貢献

下水道が有する膨大なストックや情報、質・量ともに安定した水・資源・エネルギーなどのポテンシャルを、幅広い分野との連携を深めつつ活かしていくことで、新しい価値を創造する社会の構築に貢献する。

4 国際社会に貢献

我が国が培った下水道の技術や経験を活かし、世界の水問題の解決に貢献するとともに、国際的なビジネス展開を通じ、我が国の経済の持続的成長に貢献する。

（下水道政策研究委員会報告書「新下水道ビジョン」より）

このような状況の中、札幌市下水道事業では、平成27年（2015年）3月に「札幌市下水道改築基本方針」を策定し、下水道施設の改築に関する50年先、100年先を見据えた長期的な方針を掲げました。

今後は、下水道を「次世代へつなぐ」ため、さまざまな状況の変化に対応し、長期的な視点に立った事業運営を行う必要があります。

